

会 議 録

会議の名称	平成30年度第2回 病院運営審議会		
開催日時	平成31年(2019年) 2月19日(火) 13時30分 ~ 15時15分		
開催場所	市立豊中病院 講堂 (管理棟5階)	公開の可否	可・不可・一部不可
事務局	市立豊中病院 総務企画課	傍聴者数	0人
公開しなかった理由			
出席者	委員	天野 陽子、上西 晟子、上山 真紀、澤村 昭彦、高鳥毛 敏雄、多田 耕三、深谷 和代、松本 孝治、渡邊 太郎	
	事務局	病院事業管理者 小林 栄、総長 眞下 節、病院長 堂野 恵三、副院長 嶺尾 郁夫、副院長兼看護部長 藤田 幸恵、医務局長 巽 千賀夫、中央診療局長 稲田 正己、薬剤部長 村田 充弘、看護部次長 木本 正美、医療安全管理室長 中上 紀子、事務局次長兼総務企画課長 加嶋 隆、地域医療室長 甲斐 智典、がん相談支援センター長 細貝 徳子、施設用度課長 津川 昌夫、医事課長 中村 卓、地域医療室主幹 下雅意 陽子、医療安全管理室主幹 杉山 眞紀、総務企画課主幹 城戸 篤、総務企画課主幹 坂口 真由美、施設用度課主幹 山口 光徳、医事課主幹 秋田 瑞恵、医療情報室長補佐 櫻田 靖之、総務企画課長補佐 入江 基宏	
	その他		
議題	(1) 平成30年度病院業務状況の報告について (2) 平成31年度事業計画(案)について (3) その他		
審議等の概要 (主な発言要旨)	別紙のとおり		

病院運営審議会（審議等の概要）

●委員の出席状況と審議会成立の報告

全委員11人中9人出席、本審議会成立を報告

●傍聴希望申込みの許可

傍聴希望者なし

●議案審議

- 1) 平成30年度病院業務状況の報告について
- 2) 平成31年度事業計画（案）について
- 3) その他

●審議結果

1. 平成30年度病院業務状況の報告について、事務局から資料に基づき報告【資料1】・

【資料2】

《質疑応答・意見等》

1. 新規入院患者数は増加しているのか。また、入院患者の内、他の医療機関からの紹介率はどのような状況か。

新規入院患者数は増加傾向にある。4月から1月の数値では、平成29年度は12,919人、平成30年度は13,055人で136人増加している。

入院患者の紹介率については、予定入院は少し増加し、予定外入院は減少している。

2. 院内助産が減少傾向にあるが、増加に向けたPR等は実施されないのか。

当院は、地域周産期母子医療センターとして、正常分娩は地域の医療機関に任せ、ハイリスク患者を積極的に受け入れているが、妊娠高血圧症候群や切迫早産などで院内助産につながらなかったケースがあり、件数増加に至らなかった。引き続き、PR等に努めたい。

3. 理学療法士等の産休・育休による人員減によりリハビリテーション業務が減少しているが、理学療法士等の確保に向けた取組みは行っているか。

理学療法士等の産休・育休への代替対応については、臨時職員を採用し補充を行っているが、臨時職員では応募が少なく、確保が難しい状況である。

4. 各診療科の病床利用率が100%を超えるのはなぜか。診療科の利用率を均一化できるような病床数の見直し等は考えられているのか。

診療科ごとに決めている病床数以上の患者が入院する場合は、他の診療科の空き病床で受け入れるため、利用率が100%を超えることになる。

診療科ごとの病床数及びこの指標については、病棟再編等の検討の際に見直し等考えていきたい。

5. 退院後30日以内に再入院される方の割合は医療の質やサービスの指標となるが、そのような統計は取られているか。

医療の質の向上を目的として一般社団法人日本病院会が実施している「QI(Quality Indicator)プロジェクト」に当院も参加しており、「30日以内の予定外再入率」の指標については、フィードバックデータを用いて現状の把握に努めている。

2. 平成31年度事業計画（案）について事務局から資料に基づき説明【資料3】

《質疑応答・意見等》

6. 平成30年度決算見込では8億2,700万円の赤字であるが、平成31年度予算では黒字になっている。どのように8億の赤字を改善するのか。

脳卒中ケアユニット（SCU）の開設やがん診療の充実など、急性期の患者を中心とした治療の強化に取り組みながら、新規入院患者の増加と在院日数の適正化による収益の改善をめざしていく。

7. 入院日数の適正化とはどういうことか。

当院はDPCによる入院の診療報酬の請求を行っており、診断群分類ごとに1日あたりの点数は、在院日数に応じて3段階に設定されている。定められた入院日数より長く入院している疾患については、平均在院日数期間内に退院できるよう取り組んでいる。

8. 入院日数の適正化により延入院患者数が減少することが予想されるが、適正化以外に収益増加に向けた取組みはないか。

新規入院患者を増やし、病床の回転を上げていくことが必要になるため、地域の医療機関との連携や救急患者を積極的に受入れていくことが重要と考えている。

地域医療機関との連携では、「あんしんルート」やICTを活用した連携を推進するとともに、救急については、各診療科の救急受入れ体制を再整備し、「断らない救急」に取り組む。

9. SCU開設に向け、受入体制として医師等の確保は十分できているのか。

SCU開設にあたっては医師2名の他、理学療法士、看護師の増員も予定している。また、設備面の工事も予定し、2019年7月の開設に向けて準備を進めている。

国立循環器病研究センター移転に伴い脳卒中患者は150名程度増加すると予測しており、その患者の受け入れができるように体制を整備している。

3. その他

1) 11月開催のオープンホスピタルについて事務局より報告

10. オープンホスピタルに参加し、とても良い取り組みだと思った。ただ、地域の方にあまり知られていないように感じたので、地域の小学校へも積極的に周知を行ってはどうか。

広報活動については、市の情報誌「広報とよなか」への記事掲載や小中学校へのチラシ・ポスターの配付なども行っているが、まだ十分ではないところもある。今年度のオープンホスピタルでは、SNS発信のニュースで知り参加された方もいた。今後は、さまざまな媒体を活用した周知を検討したい。

2) その他質疑

11. 市立豊中病院は先進医療に関しては、胃がん先進医療しか実施しておらず、人工透析も入院患者に対して臨時的に実施しているだけだが、もっと積極的に行えばより多くの収益が見込めるのではないか。

当院は、公立病院であることから、不採算の医療や地域及び民間の医療機関では担えない医療の提供を重点的に行っていく考えであり、先進医療についても、人的・施設の民間の医療機関では担えない部分に取り組む考えである。

12. 昨年市立豊中病院に入院した際に、看護師の数が非常に少ないように感じた。今後、新規患者を増やすには医療スタッフの充実が欠かせないと思う。

20年前と比べると、平均在院日数は25日から10.9日と約半分以下になり、同じ病床数で倍近くの患者さんが入院をしている。医療従事者に負荷はかかっているが、できるだけ早く治療を終えて退院していただけるよう努めている。

職員数についても、条例で定められている定数があり、容易に増やすことはできないが、医療機器等の活用を図りながら業務の効率化を進め、できるだけ短い期間での治療に努めたい。

13. 今年の4月から5月にかけての10連休についてどのように対応するのか。

10日間のうち2日は開院する予定をしており、現在診療体制を検討している。残りの8日は、救急の受け入れや入院治療など通常の休日体制を実施する。

14. 薬機法（医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律）の改正により、地域の薬局がその地域の実情に応じ、医療機関と情報共有し連携することが求められている。「市立豊中病院ネット」を薬局との連携にも活用の幅を広げると伺ったが進捗状況はどうか。また、豊中市薬剤師会と豊中市保健所が連携し、デジタルサイネージを活用した薬局を地域の情報拠点とする取組みを開始し、医療機関等の情報も発信できるツールとなっているが、どう考えるか。

当院で実施している地域医療機関ネットワークシステム「市立豊中病院ネット」と地域の薬局との連携について、院内での利用ルールの確認と見直しの検討を行っている。見直しが完了次第、豊中市薬剤師会と連携について相談したいと考えている。

15. 資料1「平成30年度病院業務状況」P17の病床回転数が今年度19.9であるが、他の公立病院と比較して低い。病床回転数が23以上ないと、現在の診療報酬上黒字化は難しいのではないかと。病床回転数を上げるためには、医療スタッフを増員させる必要があるが、その人員増加の計画は立てられているのか。医師だけでなく、リハビリテーションのセラピストなどの増員が必要だと思うが、どうか。

職員の定数増加については難しい面もあるが、SCU開設に向けて、定数条例の見直しなど、必要なスタッフの確保に取り組む。

16. スタッフの人員が増えない中で、赤字を解消していくためには、病床を削減することも考えていかなければならないのではないかと。

当院には、リハビリテーション病棟があるが、地域医療構想における機能分化の面から、急性期病院の機能として、見直しが必要と考えている。

17. SCUの看護配置は3対1となるが、看護師の配置は可能か。

7月実施に向けて体制を整えているところである。

18. リハビリテーションを実施する民間病院が多くあるなかで、市立豊中病院がリハビリテーション病棟を継続するかなど、病棟再編の議論が必要ではないかと思う。

次回病院運営審議会の開催は、2019年7月を予定。

<以上、終了>